

## 地域から見た環境認証制度

—ベトナムの mangrove におけるエビ養殖を事例に—

### 渡邊大樹 氏

(岡山大学大学院 環境生命科学研究科)

#### 日時

2024年2月9日(金) 17:00～18:30

#### 開催方法

対面(京都大学本部キャンパス  
総合研究2号館4階 AA447会議室)  
とZOOMのハイブリッド開催です。

下記サイトより事前にお申し込みください。

<https://forms.gle/NSzECBBEr4o9HvSN8> (当日12:00締め切り)



#### 要旨

ベトナムのエビ養殖業は、近年の目覚ましい経済発展に貢献してきた。しかし、その代償として環境破壊が問題になっている。そこで近年、国際機関や国際NGOが政府や水産商社と連携し、環境認証制度の導入に取り組み始めた。この制度は、既存の地域の生産方式をグローバル・スタンダードに基づき転換し、持続可能な流通の構築を目指す。

一方、報告者がこれまで調査してきたベトナム・カマウ省の沿岸部では、従来住民が mangrove 生態系に依拠した粗放的なエビ養殖を営んできた。この養殖方法では、水質改善のための薬剤や飼料は投入されない。そのため、彼らは皆、自分が生産したエビはとても生きが良いと自負する。カマウ省はエビ養殖が盛んであるが、この養殖形態は mangrove 地帯でしか見られない。

本報告では、このような生態環境を活かしたエビ養殖を事例に取り上げ、国際的な環境保全の取り組みを地域の視点から再考したい。そのために、養殖形態とそれに基づく地域社会の特徴を明らかにし、それが環境認証制度の導入に及ぼす影響を検討する。